

もっと安心農産物 冬キャベツ栽培暦 (令和5年)
(11~3月収穫)

JAちばみどり 銚子野菜連合会

1. 土づくり

- ・ 完熟堆肥2トン/10aを施用するか、輪作体系にトウモロコシ、マリーゴールドを作付けする

2. 施肥 施肥診断にもとづく施肥量の厳守 ①②のいずれかの施肥を実施

		肥料名	施肥量(10a)
①	基肥	有機配合8号 (8-8-8) 有機態窒素2.6	120kg以下
		または有機配合8号ペレット(8-8-4) 有機態窒素4	170kg以下
		またはエコレット866 (8-6-6) 有機態窒素4.1	170kg以下
		苦土石灰	100kg目安
		または 硫マグ	40kg目安
		リンスター30	40kg目安
		または 苦土重焼燐	40kg目安
	追肥	追肥化成S842(18-4-12)	40kg以下
		または追肥化成S248(20-4-8)	35kg 以下
	②	基肥	有機配合8号 (8-8-8) 有機態窒素2.6
または有機配合8号ペレット(8-8-4) 有機態窒素4			80kg以下
またはエコレット866 (8-6-6)有機態窒素4.1			80kg以下
苦土石灰			100kg目安
または 硫マグ			40kg目安
リンスター30			40kg目安
または 苦土重焼燐			40kg目安
追肥		追肥化成S842(18-4-12)	60kg以下
		または追肥化成S248(20-4-8)	50kg 以下

3. 防除 ①から⑤以外に3薬剤まで使用（但し、Zボルドー・エスマルクDF・スピノエース顆粒水和剤
クプロシールド・サブリナフロアブルは除く）

月	管理作業	病虫害の発生推移	薬剤名	希釈倍数・処理量	対象病虫害	備考 (耕種的防除の実施等)	
8月中旬	は種	ネキリムシ ↑ ハスモンヨトウ ↑黒腐病べと病↓ ↑コナガ↑ ↓菌核病↓	①バスマジド微粒剤 (ガスタード微粒剤) 又は キルパー	30kg/10a	根こぶ病 一年生雑草	害虫の発生量を減らすため圃場周辺の除草をする 育苗床は害虫防除のため寒冷紗でトンネル被覆をする	
下旬	60ℓ/10a						
9月上旬	定植		フロンサイド粉剤	40kg/10a	根こぶ病	根こぶ病発生圃場は早植えをさける	
中旬	定植		②オルトラン粒剤	育苗期 6g/m ² 定植時 1~2g/株	アブラムシ類	作用機作の異なる薬剤をローテーションで使用する プレバソフロアブル5(苗地床灌注) 500倍 2ℓ/1m ²	
下旬	定植		アフアーム乳剤	1000倍	コナガ・ヨウムシ	フェロモントラップの発生量を観察し防除を実施する	
10月上旬	追肥 土寄せ		↓	③ダユニール 1000	1000倍	べと病	降雨が多く、病害の発生が予想される場合
				アドマイヤーフロアブル	4000倍	アブラムシ類	菌核病 ロプラール水和剤 1000倍 セイビアーフロアブル 20 1000倍 黒腐病 カスミンボルドー 1000倍 キノドーフロアブル 800倍
中旬	結球 初期		↓	④マツチ乳剤	2000倍	アオムシ・コナガ	
下旬	結球 初期		↓	⑤フェニックス顆粒水和剤	2000倍	アオムシ・ヨウムシ	コナガの発生が多い場合 ディアナSC 2500~5000倍 プレオフロアブル 1000倍 トルネードエースDF 1000倍 アクセルフロアブル 1000倍 ハチハチ乳剤 1000~2000倍 グレーシア乳剤 2000~3000倍
11月上旬	収穫		↓				
中旬	収穫		↓				べと病の発生が予想される場合 ランマンフロアブル 2000倍
下旬	収穫		↓				防除回数に含めない薬剤 Zボルドー 500倍 スピノエース顆粒水和剤 2500倍 エスマルクDF 1000倍 サブリナフロアブル 1000倍 クプロシールド 1000倍
12月上旬	収穫		↓				
中旬	収穫		↓				

☆みんなで守ろう生産基準